

分野別意見交換会報告書 【建設水道常任委員会】

開催日時：令和8年(2026年)5月11日(月)10時00分～12時13分

開催場所：箕面市役所 委員会室

団体名：箕面市農業経営者連絡協議会

出席者：箕面市農業経営者連絡協議会 4名

出席議員：武智委員長、木下副委員長、村川委員、尾崎委員、牧委員

傍聴者数：4名(委員外議員4名)

テーマ：「都市農業×市民参加」の未来像について

番号	項目	内容
1	担い手不足・高齢化	<ul style="list-style-type: none">・農業従事者の減少が進み後継者育成が難しい。・子どもが農業に魅力を感じる環境づくりが重要である。・シルバー人材センターのように「農業担い手センター」が必要。
2	都市住民との摩擦	<ul style="list-style-type: none">・野焼き、農機具の騒音、臭いなどへの苦情が増加。特に、市街化区域内では、すぐに警察や消防へ通報される。・新住民が農業への理解を持たず、都市化の進展により営農環境が悪化している。
3	経営面の厳しさ	<ul style="list-style-type: none">・資材費・肥料費・物流費の高騰(国際情勢の影響)が問題。・小規模農地が分散し、集約化や効率化が難しい。・技術支援だけでなく「農業で生活できる収益構造」への支援が不足している。
4	市民農園・体験農園	<ul style="list-style-type: none">・農地を守る方法として一定の成果がある。・農業未経験市民でも参加意欲は高い。・一方で、プロ農家との意識差や「趣味」と「生業」の違いが課題である。
5	食育・地産地消	<ul style="list-style-type: none">・地元産野菜や米への需要は高い。・子どもの農業体験や家庭教育が将来の担い手育成に重要。・農業理解不足を埋めるには、市民への教育や情報発信が必要である。
6	行政への要望	<ul style="list-style-type: none">・箕面市独自の農業支援策が不足。・地域実情に合った補助制度や設備支援が必要。・農地集約化、農業公園的施設、共同設備(道具・トイレ・作業場)整備への期待。・農業の地域計画が実行段階に乏しいとの指摘。・農業持続の補助金のようなものを創設できないか。・水路の補修を要望しても予算がつかない。
8	「農地保全」か「開発」か	<ul style="list-style-type: none">・市街化や宅地化が農業を圧迫している。・一時的な土地売却益が農業継続意欲を弱める面も。・農地は単なる景観ではなく「食糧安全保障の基盤」であるべきとの強い主張が必要。
9	総括	<ul style="list-style-type: none">・箕面市の農業の維持には「農家支援」「市民理解」「食育」「地産地消」「行政の具体的支援」この5つを一体的に進める必要がある。特に、「農業を守る」だけでなく、「農業で成り立つ環境をどう作るか」が、最大の課題である。